

第3部 大学等の研究機関での取り組み

座長紹介と挨拶

座長 中村 浩志(一般財団法人中村浩志国際鳥類研究所)

○司会者(本間香菜子) それでは皆様、ただいまより第3部を始めさせていただきます。

第3部は大学などの研究機関での取り組みをテーマにお話しいただきます。座長は今大会の実行委員長であります一般財団法人中村浩志国際鳥類研究所 中村浩志が務めさせていただきます。

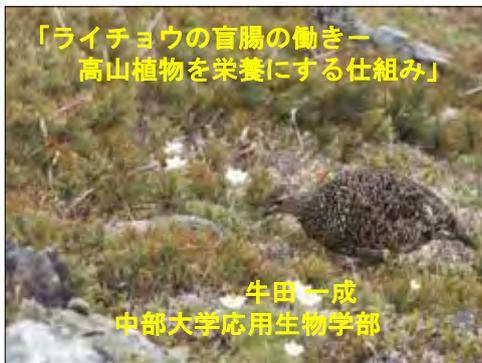
それでは、どうぞよろしくお願ひいたします。

[座長・一般財団法人中村浩志国際鳥類研究所 中村浩志 登壇](拍手)

○座長(中村 浩志) それでは第3部に移らせていただきます。

第3部は、先ほど説明がありましたように、動物園とともに大学とかそのほかの研究所でやっている研究を第3部としてまとめさせていただきます。

これから計5つの講演をしていただきます。



1 「ライチョウの盲腸の働きー高山植物を栄養にする仕組み」

牛田 一成(中部大学応用生物学部)

○座長(中村 浩志) まず初めに中部大学応用生物学部の牛田一成先生に「ライチョウの盲腸の働きー高山植物を栄養にする仕組み」について発表をお願いいたします。

○牛田 一成 それでは早速始めさせていただきます。

次をお願いします。

ライチョウを特徴づける最大の点というのは、非常に大きな盲腸を持っているということになります。

実は、こういう動物はほかにもありまして、例えば有毒なユーカリという植物だけを食べているコアラという動物もとても大きな盲腸を発達させていて、そこに住む腸内細菌によってユーカリの毒を解毒し消化できるようにしているという点で、ライチョウと共通点が多いものになります。

ライチョウの体には、この図で説明すると、ここにこういうふうに素囊がありまして、つづいて胃、そこには腺胃と筋胃がありまして、そこから小腸があつて、小腸の末端部分にこのように大きな一対の盲腸があるという消化器の構造をしております。

ライチョウの仕事をされている方、関心を持たれて観察されている方はよく御存じかと思いますが、ライチョウは2種類の糞をします。

写真左側、これは我々のところで腸糞と呼んでいるものです。画像のように細長い形状のもので、割合パサパサしたものになります。コルクのような感じに見えるときが多いです。

一方で、右側の画像は盲腸糞です。先ほども話があったと思うのですが、盲腸糞というのは、この画像のように水分をより多く含んでいて、粘液質でネバネバした形状のものになっています。

これらがどういった仕組みで2つに区別されて排泄されてくるかということを少し御紹介いたします。

